

岩松惇は本校入学（昭和二年）後左翼運動に傾き、同四年三月、前年に引続いての「体操」と「遠近法」不合格の廉で論旨退学を申し渡され、説論に応じないばかりか、担当職員を殴ったりしたので除名の処分を受けた。自著『あたらしい太陽』（一九七八年、晶文社）はその時の情景を描いた版面に添えて「しかし、官立美術学校は、軍事教練不出席の理由で、私を放りだしてしまった。いや、陳述さえ受けつけない生徒監（生徒主事の誤りか）を一撃して、私は学校を捨てた。」という言葉が記されている。八島の場合は持ち前の奔放な気質による反発という面が大きいが、そこに左翼的思想も介在していたことも否めない。

③ 科外講義

本校では従来時折り一般を対象とする科外講義を開設したが、大正十四年度においては次の二つが開設された。

- 一、考古学（茶道、模様論） 大正十四年四月～同十五年三月、毎週土曜日午後一時～二時。講師今泉雄作（本校講師）。聴講者男三十人、女五人。受講費無料。

- 二、支那絵画史（歴代名画記、図画見聞誌、画経） 大正十四年四月～同十五年三月、毎週火曜日午前十一時～十二時。講師大村西崖（本校教授）。聴講者男二十人、女三人。受講費無料。

大正十五年四月、文部省専門学務局長より正木直彦校長に対し、「学校擴張事業ニ関スル調査ノ件」の問合わせがあった。それは「学校擴張事業ハ近時著シク發達シ貴校ニ於テモ、従来、各種ノ名

稱ノ下ニ一般民衆ヲ對象トスル學校擴張事業ニ関シ施設セラレタルコト、思料セラル、カ、今回調査上必要有之、大正十四年度中ニ於テ實施セラレタル施設ニ関シ」報告せよという内容であった。これに対して校長は「本校ニ於テハ別段學校擴張ヲ目的トシテ施設シタル事業無之只聴講者ニ特別ノ資格制限ヲ設ケサル左記〔別紙に上記二科目の實施概要が記されている。〕事業ハ稍々類似セルモノト思考セラレ候」云々と回答している。

④ 森芳太郎の在外研究

教授森芳太郎（東北帝国大学講師兼任）は大正十四年十一月、文部省より工芸化学研究のため満二年間ドイツ在留を命ぜられ、同年十二月二十日に出発した。追ってアメリカ合衆国在留をも命ぜられ、昭和三年三月十四日、研究を遂げて帰国。本校に復職し、同年まで工芸化学および化学実験授業を担当した。

森は明治二十三年大阪市生まれ。大正三年京都帝国大学工科大学工業化学科を卒業し、翌四年から本校の嘱託教員となり、臨時写真科と製版科の物理学、化学、化学実験や工芸化学、数学等の授業を担当した。写真学に造詣が深く、光化学や写真術第三部授業も担当し、鎌田弥寿治留学中は臨時写真科主任兼理事もつとめた。『東京美術学校校友会月報』に寄稿した「真鍮の点金着色法の研究」（第二十八巻第八号）、「鉄器の燻蒸着色に就て」（第二十九巻第六号）、「古画の洗浄に就て」（第三十巻第四号）に研究の一端を窺うことが出来る。特に「古画の洗浄に就て」は大英博物館におけるスコット(Dr. Alexander Scott)を中心とする科学研究室の仕事を参観して発

奮した森が、古美術の保存修復科学の振興のため本校工芸化学教室で実験を行い、その結果をまとめたものであって、わが国においてこの種の研究に先鞭をつけたものとして注目される。なお、この実験のために正木直彦校長は古画九点を貸与するなどして協力した。

⑤ 西洋画科教室制に関する記録

大正末昭和初期の西洋画科は三年生以上に教室制を適用しており、二年生はその学年末に第一志望、第二志望を記した教室編入願いを提出することになっていた。この教室制については詳しい資料が無く、全容を通観するのが困難だが、「授業関係書類」（大正十二年一月〜昭和二年十二月教務掛作成）中に僅かに現存する記録を次に掲げる。

志望教室變更ノ件

西洋畫科志望教室編入後ハ在学中途ヨリ教室ノ變更ヲ許可セザルモノニ有之候處各担任教官合議ノ結果左記三名ノ者ニ對シ本年度新学年ノ始メニ於テ其教室ノ志望變更ヲ許可致シ度此段御認許相成度ク申進メ候也

- 藤島教授受持教室ヨリ 西、四 顔水龍（台）
 - 岡田教授受持教室へ變更
 - 和野教授受持教室ヨリ 西、四 荻野映彦
 - 藤島教授受持教室へ變更
 - 岡田教授受持教室ヨリ 西、四 譚連登（支）
 - 藤島教授受持教室へ變更
- 大正十四年四月一日

大正十四年四月 第三年生各教室編入表 西洋畫科

和野 岩田 芳助	藤島 奥村 義雄	岡田 中井惣之助
藤島 猪熊玄一郎	和野 渡邊 得三	岡田 野崎 龍雄
岡田 石井 喬明	藤島 加藤鬼頭太	岡田 山村孝太郎
和野 伊勢 幸平	藤島 片野誠二郎	藤島 山口 猛彦
和野 波多野勝好	藤島 勝見 謙信	藤島 安田岩次郎
岡田 二宮不二麿	岡田 田中 致美	藤島 丸山 清六
藤島 星合 良顕	藤島 田中 孝夫	藤島 松原 勝
藤島 椿堂芳三郎	和野 田淵 巖	和野 古山 潤
藤島 大澤 昌助	和野 竹田 讓	和野 古屋 暹
岡田 福島順之助	藤島 島津 久幹	
藤島 小松原義則	和野 清水 直康	
藤島 小島 勘藏	藤島 関谷 陽	
藤島 天野武吉郎	和野 杉山 栄	
和野 浅井 景一	藤島 鈴木 重成	
藤島 佐藤 文雄	和野 選林 清	
藤島 佐藤 功	岡田 特朴 廣 鎮	
藤島 迫田鉄次郎	岡田 康 弼 祥	
岡田 三木 辰夫	藤島 鄭 皚 生	
岡田 宮間 郁三	藤島 金 鴻 植	
各教室編入生徒數		
和野教室編入	十二人	
藤島教室編入	二十四人	
岡田教室編入	十一人	